

ポテンシャルマップ等について

1. ポテンシャルマップについて

- ✓ 本事業では、市内の植生や土地利用を基に生物多様性保全上重要な場所や保全・再生の取組が期待される場所等を評価するためのマップを「生態系保全・再生ポテンシャルマップ」と位置付け、マップの検討・作成を進めています。
- ✓ また、ポテンシャルマップの基礎資料として、植生図や土地利用図を用いて土地利用の変化を整理しています。
- ✓ 船橋市自然環境調査計画書(案)(令和6年度第1回船橋市環境審議会資料)においては、以下のマップを作成し、自然環境調査地域の選定にあたって活用しました。

検討項目	概要・目的
(1)生態系の分布	・1/25,000植生図(環境省)を基に、船橋市内の生態系の分布を地域戦略の6区分(樹林地・斜面緑地、水田・湿地、畑地・草地、市街地等、河川・水路、河口・海域)で可視化し、調査地域の妥当性を検討
(2)土地利用の変化	・土地利用図(JAXA高解像度土地利用土地被覆図)を用いて、調査地点候補地の前回調査からの土地利用の変化を把握
(3)自然的景観の多様度	・自然的景観の多様度(1/25,000植生図に基づき、里山などの多様な生態系が複雑に入り混じった場所を評価する指標)から、船橋市内において生物多様性保全上重要な場所を把握 ※「自然的景観の多様度」の評価結果については、環境省が全国のデータを公表しており、ダウンロード可能となっている。
(4)水田の分布や地形(谷津地形の分布)	・谷津・谷地形部の分布(陰影起伏図や航空写真を用いた評価)や水田・畑地の分布(農林水産省筆ポリゴン)を踏まえ、今後、保全・再生が期待されるまとまった谷津環境を検討

2. 調査地域の見直し

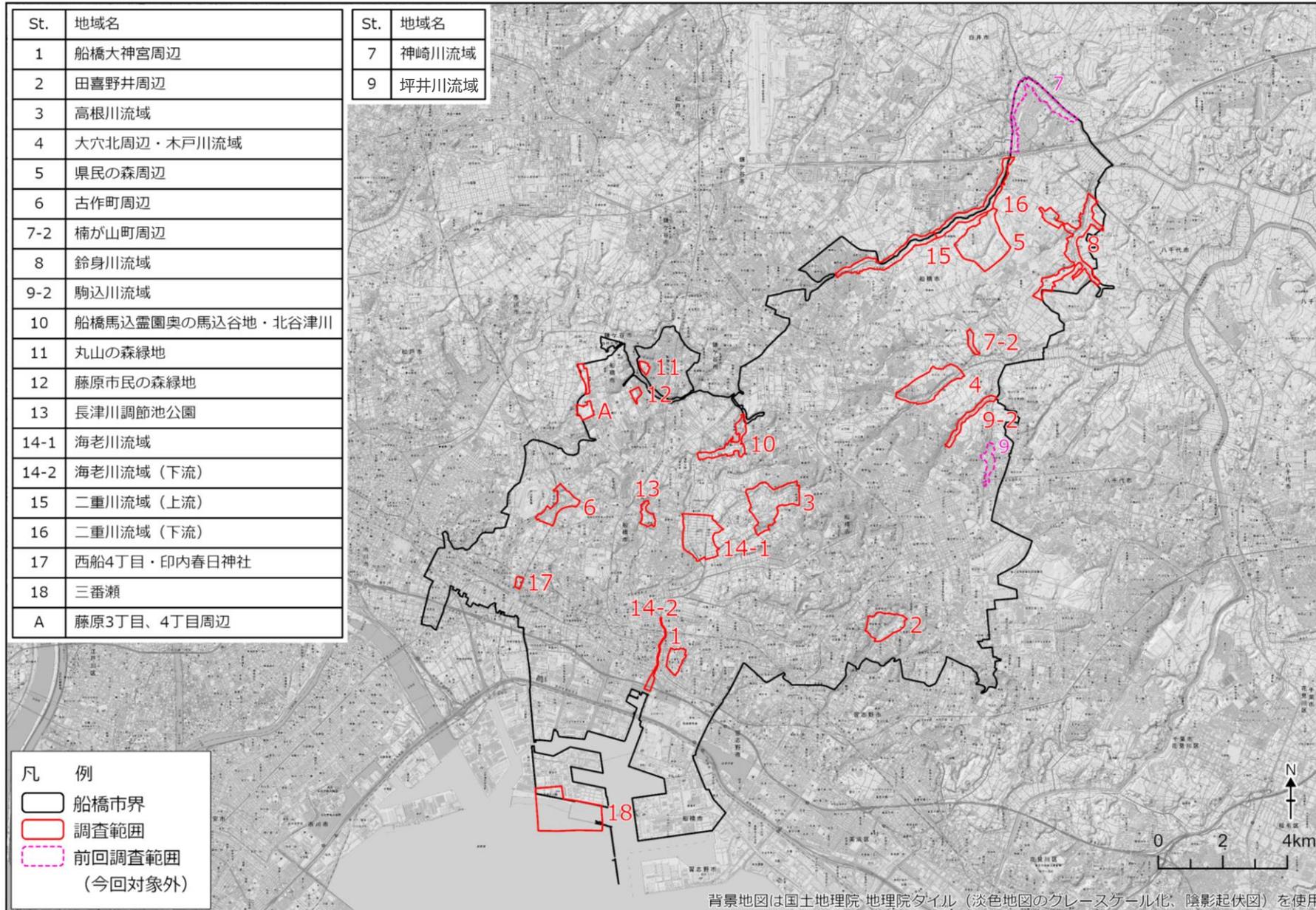
前回調査から約10年が経過し、市の開発や放棄耕作等によって環境の変化が生じてきています。自然環境調査においても変化に応じた見直しが必要であるため、以下の視点から調査地域の見直しを実施しました。

- ✓ 前回調査以降に土地利用の変化等が生じており、調査地域として適切ではないと考えられる地域がある場合には見直しを検討
- ✓ 既に生物多様性に関する取組が実施されている地域や今後の改善が見込まれる地域(多自然川づくりの実施が予定されている河川区域等)がある場合には見直しを検討
- ✓ 船橋市緑の基本計画【改訂第2版】における水と緑のネットワークの景観軸の観点から、一部調査地域の追加を検討

2. 調査地域の見直し

番号	地域名	備考	前回調査地点	変更理由
1	船橋大神宮周辺	社寺林		
2	田喜野井周辺	公園、緑地		
3	高根川流域	高根川、台地、農地		
4	大穴北周辺・木戸川流域	台地、農地、斜面林、木戸川	大穴北周辺	調査地域に多自然川づくりを行った木戸川(水域)を含める(拡大)
5	県民の森周辺	平地林、農地		
6	古作町周辺	市街地緑地、残置森林		
7-2	楠が山町周辺	農地	神崎川流域	神崎川流域は自然的景観の多様度が低いため、遊休農地の活用の取組のある楠が山に変更(変更)
8	鈴身川流域	河川沿い、農地、谷津田		市民団体が活動を行っている「行々林せせらぎの森」を調査地域に追加(拡大)
9-2	駒込川流域	河川沿い	坪井川流域	駒込川では多自然川づくりが計画されているため、その事前調査として実施(変更)
10	船橋馬込霊園奥の馬込谷地・北谷津川	谷地、金杉川源流部		北谷津川では整備計画があり、その事前調査として調査地域に追加する(拡大)
11	丸山の森緑地	緑地、残置森林		
12	藤原市民の森緑地	緑地、残置森林		
13	長津川調節池公園	調節池、公園		
14	海老川流域	河川沿い、農地		
15	二重川流域(上流)	河川沿い、農地		
16	二重川流域(下流)	河川沿い、農地		
17	西船4丁目緑地・印内春日神社	緑地、社寺林		水と緑のネットワークの観点から調査地域に追加(新規追加)
18	三番瀬	干潟		
A	藤原3丁目・4丁目周辺	緑地、残置森林		市民団体より調査実施の要望を受け、まずは生物相等の実態把握のため、専門補足調査地域として追加する(新規追加)

2. 調査地域の見直し



【参考】生態系の分布

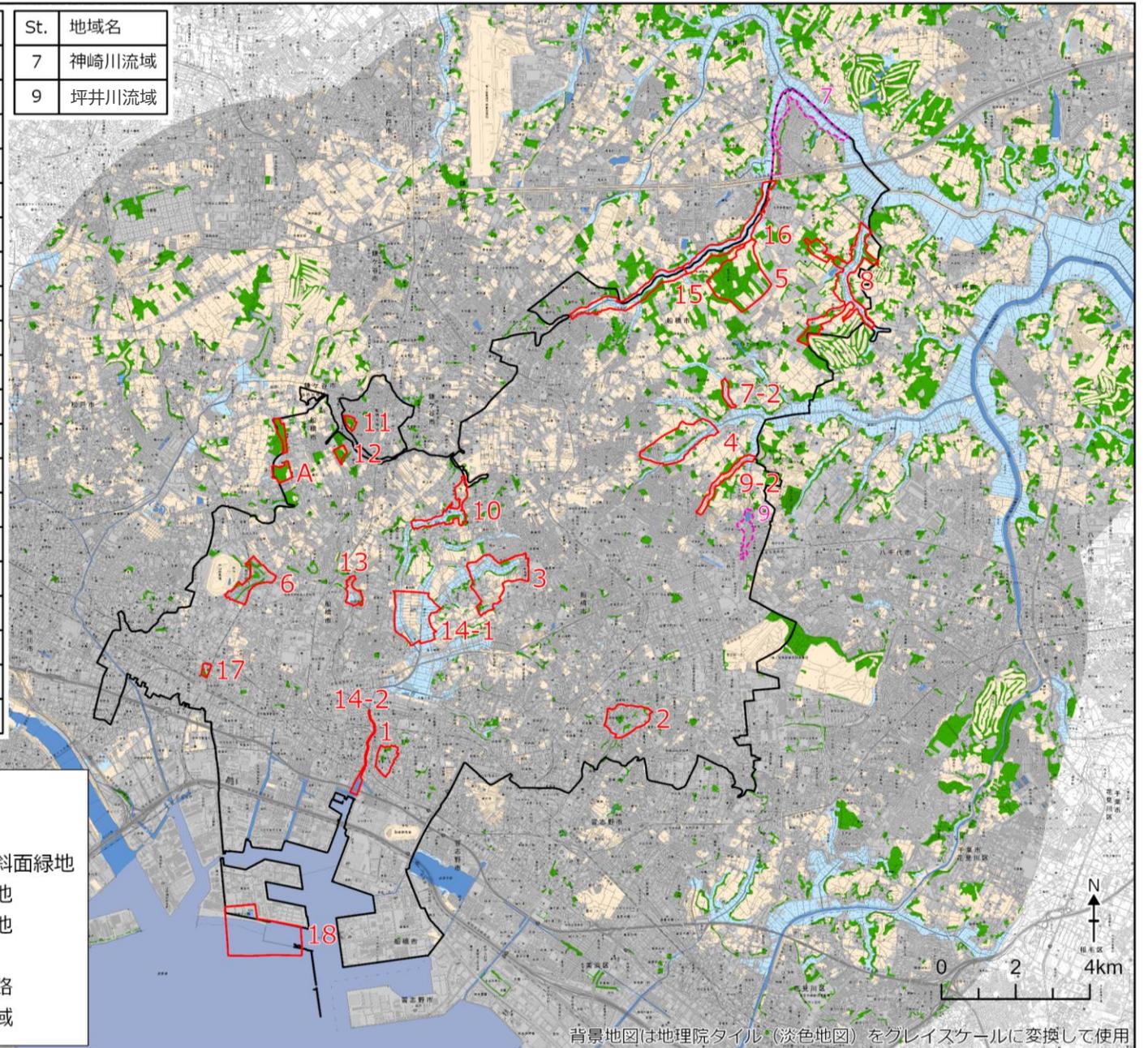
- ✓ 船橋市の生態系や土地利用の特徴を把握するために、6区分の生態系区分(地域戦略の区分)に分け、前回調査地域を重ね合わせ。
- ✓ 北部や中部のまとまった樹林地・斜面緑地や農地は調査地域となっていると考えられる。
- ✓ 一方で、中部・南部の都市域においても緑地が分布している。

St.	地域名
1	船橋大神宮周辺
2	田喜野井周辺
3	高根川流域
4	大穴北周辺・木戸川流域
5	県民の森周辺
6	古作町周辺
7-2	楠が山町周辺
8	鈴身川流域
9-2	駒込川流域
10	船橋馬込霊園奥の馬込谷地・北谷津川
11	丸山の森緑地
12	藤原市民の森緑地
13	長津川調節池公園
14-1	海老川流域
14-2	海老川流域(下流)
15	二重川流域(上流)
16	二重川流域(下流)
17	西船4丁目・印内春日神社
18	三番瀬
A	藤原3丁目、4丁目周辺

St.	地域名
7	神崎川流域
9	坪井川流域

凡 例

	船橋市界		生態系区分
	調査範囲		樹林地・斜面緑地
	前回調査範囲 (今回対象外)		水田・湿地
			畑地・草地
			市街地等
			河川・水路
			河口・海域



背景地図は地理院タイル(淡色地図)をグレイスケールに変換して使用

【参考】土地利用の変化

- ✓ 船橋市内の土地利用変化を把握し、調査地域の妥当性を確認。
(右図は、JAXA高解像度土地利用土地被覆図に基づく評価)
- ✓ 前回調査地域のうち、旧坪井川流域 (St.9) については都市への転換が進んでいると考えられる。

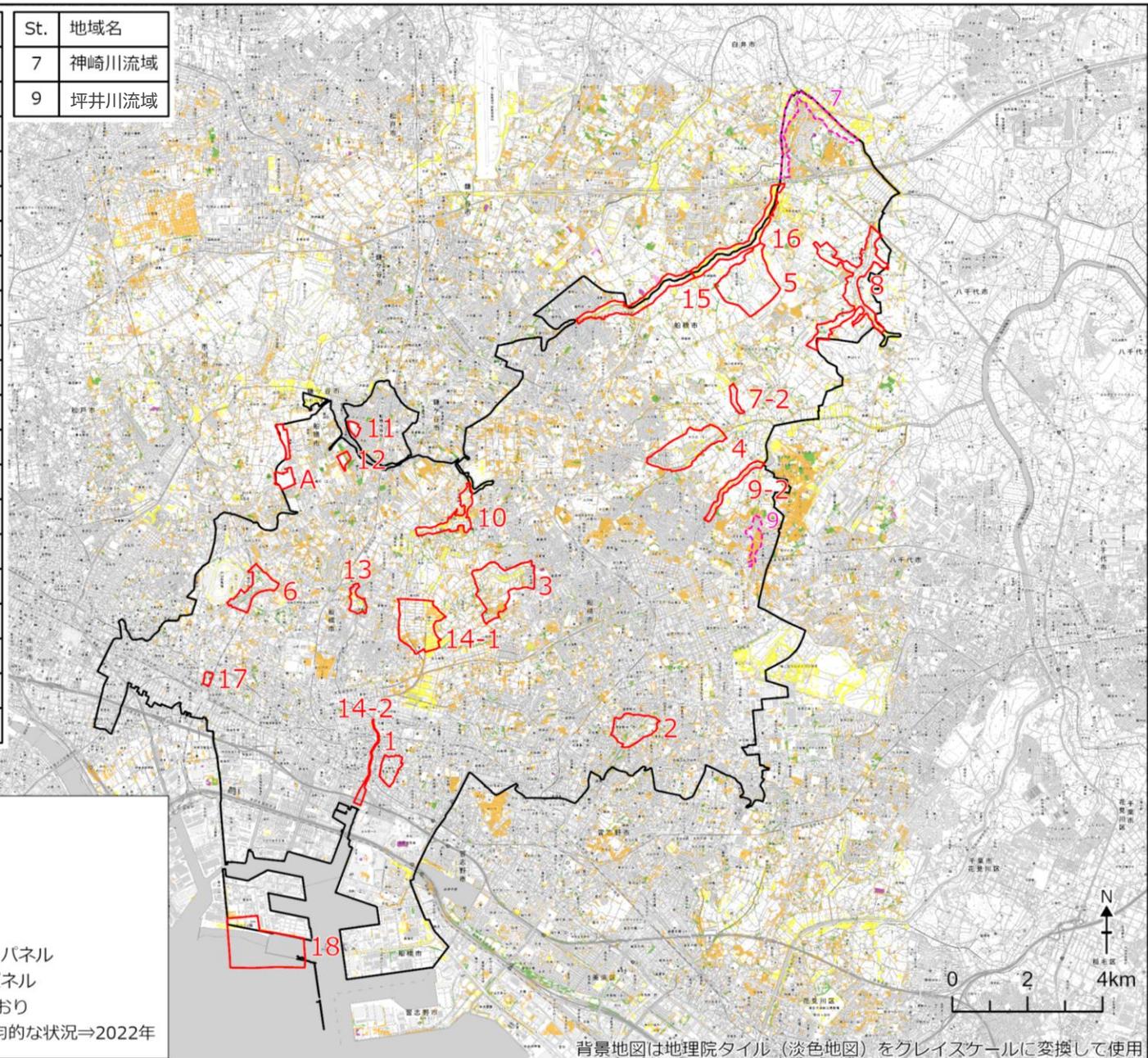
St.	地域名
1	船橋大神宮周辺
2	田喜野井周辺
3	高根川流域
4	大穴北周辺・木戸川流域
5	県民の森周辺
6	古作町周辺
7-2	楠が山町周辺
8	鈴身川流域
9-2	駒込川流域
10	船橋馬込霊園奥の馬込谷地・北谷津川
11	丸山の森緑地
12	藤原市民の森緑地
13	長津川調節池公園
14-1	海老川流域
14-2	海老川流域 (下流)
15	二重川流域 (上流)
16	二重川流域 (下流)
17	西船4丁目・印内春日神社
18	三番瀬
A	藤原3丁目、4丁目周辺

St.	地域名
7	神崎川流域
9	坪井川流域

凡 例

	船橋市界		農地・樹林から都市化
	調査範囲		農地⇒草地
	前回調査範囲 (今回対象外)		樹林地⇒都市
			農地⇒都市
			樹林地⇒ソーラーパネル
			農地⇒ソーラーパネル

※2時期は次のとおり
2006-2011年平均的な状況⇒2022年



背景地図は地理院タイル (淡色地図) をグレイスケールに変換して使用

【参考】自然的景観の多様度

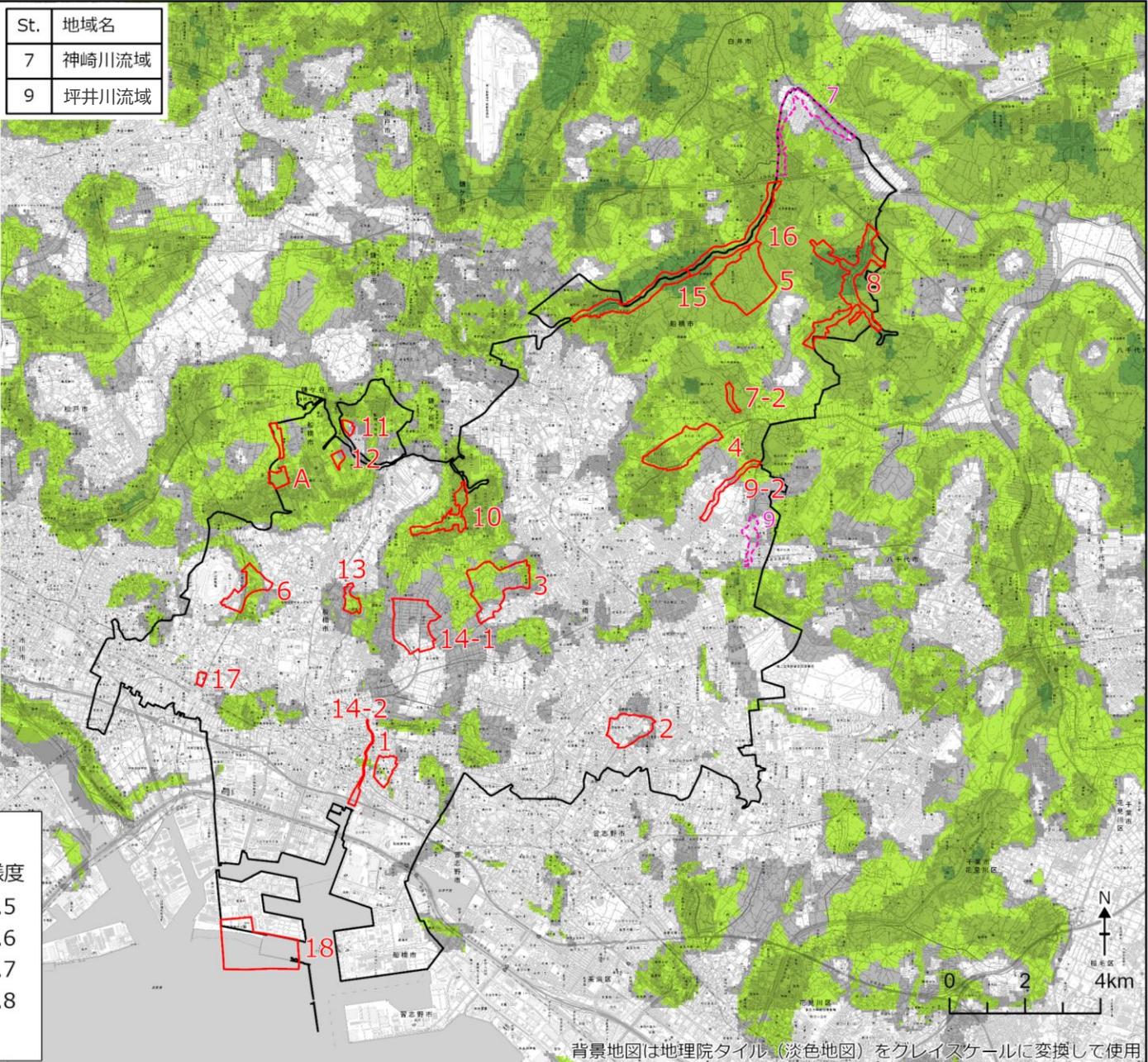
- ✓ 自然的景観の多様度を用いて、市内において里山のように多様な生態系がまとまって分布する場所を把握。
- ✓ 市内の北部において自然的景観の多様度が高い場所が分布しており、前回調査地域となっている。
- ✓ 神崎川流域(St.7)、二重川流域(St.15,16)では、神崎川流域の多様度が比較的低い。
- ✓ また、都市化が進んだ旧坪井川流域(St.9)も多様度は低い。

St.	地域名
1	船橋大神宮周辺
2	田喜野井周辺
3	高根川流域
4	大穴北周辺・木戸川流域
5	県民の森周辺
6	古作町周辺
7-2	楠が山町周辺
8	鈴身川流域
9-2	駒込川流域
10	船橋馬込霊園奥の馬込谷地・北谷津川
11	丸山の森緑地
12	藤原市民の森緑地
13	長津川調節池公園
14-1	海老川流域
14-2	海老川流域(下流)
15	二重川流域(上流)
16	二重川流域(下流)
17	西船4丁目・印内春日神社
18	三番瀬
A	藤原3丁目、4丁目周辺

St.	地域名
7	神崎川流域
9	坪井川流域

凡 例

	船橋市界	自然的景観の多様度	
	調査範囲		0.001 - 0.5
	前回調査範囲 (今回対象外)		0.501 - 0.6
			0.601 - 0.7
			0.701 - 0.8
		0.801 - 1	



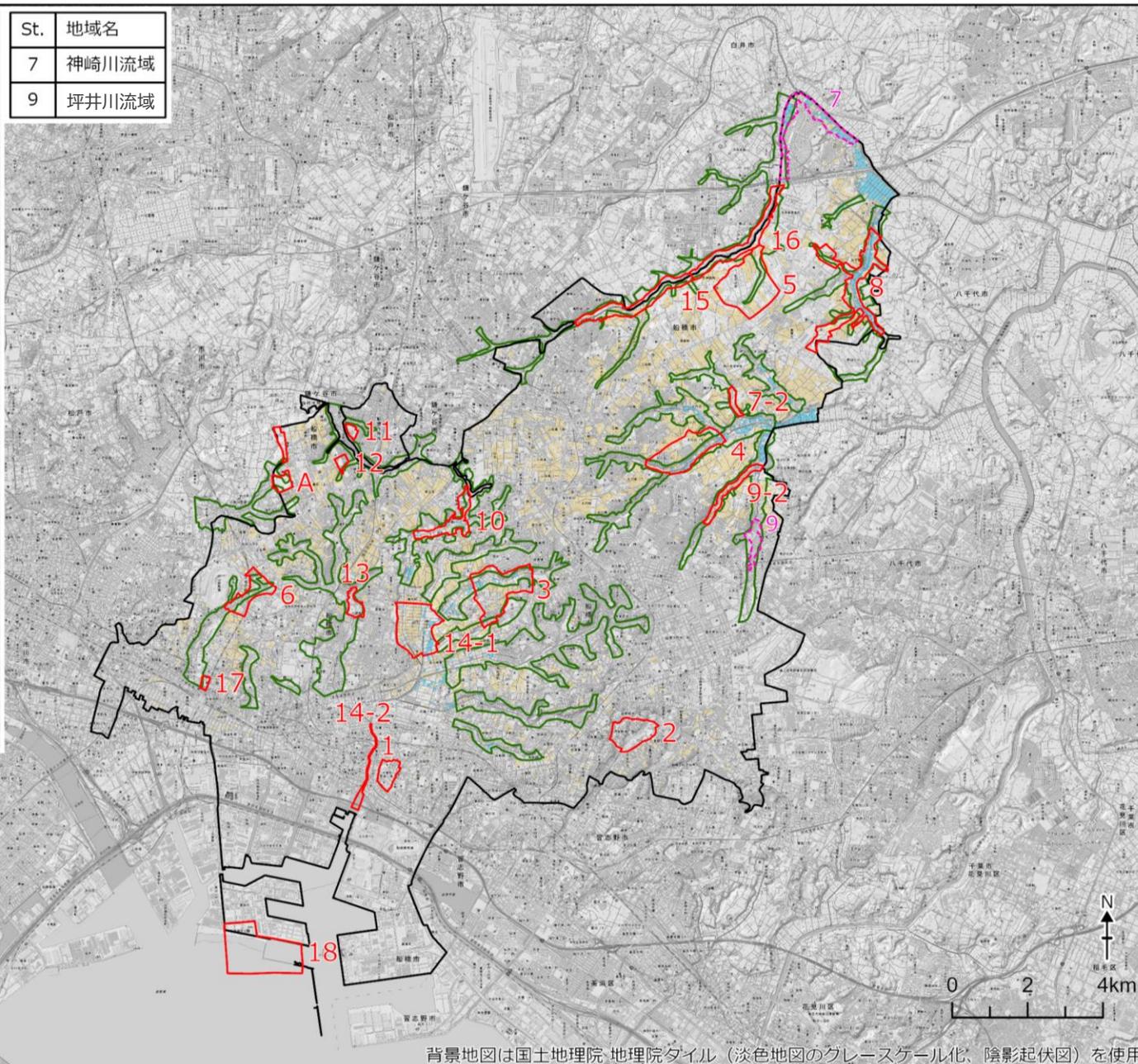
【参考】水田の分布や地形(谷津地形の分布)

- ✓ 市内の北部～中部にかけて谷津地形が分布している。
- ✓ 谷低部が水田の谷津地形は、里地里山の重点的な保全・活用に向けた拠点となることが想定され、北部に集中して分布している。
- ✓ 北部の谷津地形では、大穴北周辺(St.4)や鈴身川流域(St.8)が調査地域となっている。

St.	地域名
1	船橋大神宮周辺
2	田喜野井周辺
3	高根川流域
4	大穴北周辺・木戸川流域
5	県民の森周辺
6	古作町周辺
7-2	楠が山町周辺
8	鈴身川流域
9-2	駒込川流域
10	船橋馬込霊園奥の馬込谷地・北谷津川
11	丸山の森緑地
12	藤原市民の森緑地
13	長津川調節池公園
14-1	海老川流域
14-2	海老川流域(下流)
15	二重川流域(上流)
16	二重川流域(下流)
17	西船4丁目・印内春日神社
18	三番瀬
A	藤原3丁目、4丁目周辺

St.	地域名
7	神崎川流域
9	坪井川流域

凡	例
	船橋市界
	調査範囲
	前回調査範囲 (今回対象外)
	水田
	畑地
	谷津・谷地形部



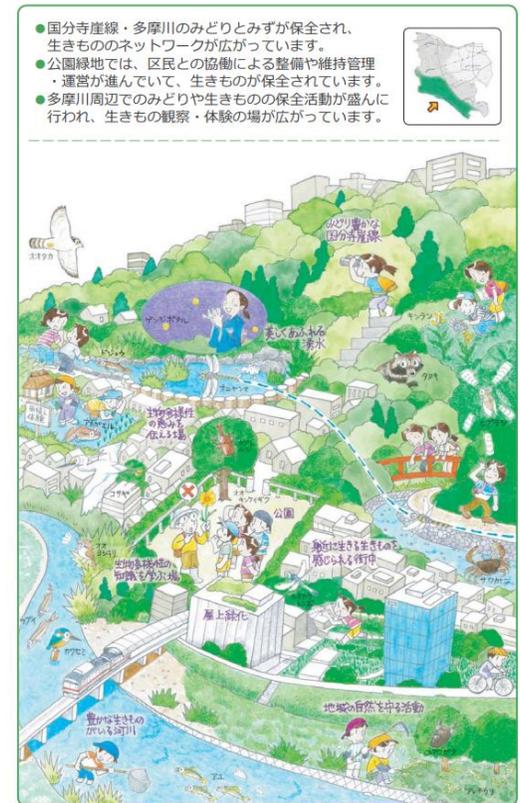
3. 空間計画について

- ✓ 施策の検討にあたって、生態系や土地利用の空間的な分布を整理し、地域の特性・課題に応じた施策を検討することを想定しており、このように特定の土地や地域に紐づいた情報の整理・施策の検討を行うプロセスを「空間計画」と称しています。
- ✓ 今後は、次期生物多様性ふなばし戦略の改定に向けて、自然環境調査の結果等も活用したマップの作成、施策の検討を進めて参りたいと考えております。

【空間計画の事例】



①みどりの連続性が高い地域「多摩川・国分寺崖線エリア」



出典:生きものつながる世田谷プラン

4. 前回調査からの土地利用の変化

- ✓ 前回調査(平成26年度)から今回調査(令和6年度)までの土地利用の変化を整理しました。
- ✓ 調査地域別の土地利用の変化は参考資料に示しています。

【例:St.1 船橋大神宮周辺】

